沖電気の新型ATM

偽造カード対策強化

複数の生体認証へも対応

40%シェア狙い7月から

沖電気工業は今年7月から、偽造キャッシュカード対策などセキュリティーを強化した新型ATMの販売を開始する。商品名は「ATM－BankIT」。ICキャッシュカードや手のひらや指の静脈を使った複数の生体認証に対応した。提供価格は400万～600万円の見込み。今後3年間で2万台、ATM市場の出荷シェアで40%以上を狙う。

同時に複数の生体認証装置の取り付けはできないが、富士通から手のひら静脈、日立製作所から指静脈の認証装置を供給してもらうため、それらを搭載した他社製ATMとの互換性は確保されている。

利用のたびごとに暗証番号の表示配列を変更する「スクランブル表示」が搭載され、利用客の画像記録も可能など、高い安全性を実現したのが特徴。

同時に、画面切り替えがゆっくりスライドするように「高齢者用」の選択もでき、曲面ボディーや画面に傾斜角を設けるなどして車いすでもカード挿入やATM操作がしやすいように配慮した。

紙幣を入れておく格納ボックスも従来比45%増と大容量化し、警送回数の削減を図るなど「サービスを止めない機能を満載」（沖電気）し、年間運用コストが23%減となるようにした。

同社では「非接触ICカードや携帯電話での振り込みも可能にした。今後は安全性だけでなく、営業チャネルとしての活用も提案していきたい」と話している。

フアイル

入退室管理システムを新発売

◆SKRテクノロジー（本社＝東京、関本明史社長）　営業店向け入退室管理システムの新製品を開発した。「セキュリティエリア用ゲートシステム」の構成は、非接触ICカードとタッチパネル付きパソコン（PC）と判定装置付きコントローラー。

ICカードをタッチパネル付きPCにかざすと個人認証画面を表示。タッチパネルを利用し、ーモニックガード（視覚長期記憶型認証ソフト）によって思い出画像を選択し認証、入室を許可する。入退室のログ履歴も記録する。不正アクセスや認証なしの通過の際はアラームと表示灯で警告する。

価格は50ユーザーで200万円。タッチパネル付きPC、ICカードと認証ソフト、ログ履歴ソフト使用料、表示灯、コントローラーを含む。